

奨学生(第3期生)からのメッセージ

Uさん (岡山大学 教育学部)

サカタ財団の奨学生に選んでいただいたことで、頭だけでなく身体でも学び続け、自身の志の解像度を上げることができました。奨学金を活用して教育系の団体を立ち上げ、代表を務めてきました。閉校になった小学校の校舎をDIYし、そこを拠点に中高生の挑戦や探究を応援するプログラムを行政や学校と連携協働して提供しています。この活動を始める前は、地域にも貢献できる学校教員になりたいという夢を持っていましたが、子どもたちと関わる中で「中高生のよさ・可能性を社会の力にする」という志に深化しました。私は春から地元で中学校の数学教員になります。教員になってからも頭と身体で学び続け、子どもたちや地域の未来にタネをまくことで、これまでのご恩に還元してまいります。たくさんの学びや素敵な方々とのご縁をいただき、心より感謝申し上げます。

Kさん (九州大学 工学部)

貴財団の奨学生に選んでいただいたことにより、自分の研究生生活を大変充実させることができました。私の将来の夢は高性能な通信による災害対策の充実化です。そのために大学では6G関係の研究室に所属しています。奨学金をいただくことで金銭面に不安を抱えることなく、夢の実現に向けて、大学4年間を学問と研究に費やすことができました。また貴財団の奨学金によって、時間的な余裕が生まれたことにより、幼いころからの憧れであった鳥人間サークルに所属し、仲間とともに精力的に機体制作に励むことができました。その活動の中で、ただ一つの目標に向けて試行錯誤を繰り返した経験とそこで得られた仲間という何物にも代えがたい宝を得ることができました。このほかにも海外留学やプログラミング関係のワークショップへの参加など、様々な経験に対して奨学金を利用させていただきました。ここで得られた多くの経験を今後の進路でも生かし、社会に還元できる人材へと成長していけるよう、日々精進していきたいと思っております。

Kさん (千葉大学 園芸学部)

サカタ財団の奨学生に選んでいただいたことで、充実した大学生活を送ることが出来ました。私は学部一年生の時に、大学を三年で卒業する早期卒業に挑戦しようと決めました。これには四年のカリキュラムを三年で終え、また良い成績を維持する必要があったため、趣味の時間を削る覚悟をしていました。しかし、奨学生になったことでアルバイトの回数を減らし、部活動が続けながら学業に取り組むことが出来ました。そして、目標であった早期卒業も達成できました。この御恩を忘れず、新たなステージでも「未来にタネをまく人材」になるべく、目標に向かって努力し続けます。これから奨学生を目指す皆様へ、奨学生になると交流会で熱意をもって研究や学業に取り組む仲間に出会えます。ぜひ高い目標を持ってサカタ財団に挑戦してください！

Sさん (神戸大学 法学部)

大学(院)での時間は短いです。学業や部活、サークルやアルバイトなどさまざまなことをしているとあっという間に時間は過ぎます。ただ、学生である以上、学業を中心に日々の生活を送ることが大事です。とはいえ学費や生活費、自由に使えるお金のためにアルバイトもする必要があります。学業と、アルバイトを含めたそれ以外の活動とのバランスが難しいと思います。その点で奨学金をいただくというのは大きな意味を持ちます。アルバイトに費やす時間をかなり削ることができるからです。他方でアルバイトも大事だと強く感じます。働くことの意味や世の中にはさまざまな人がいることを、身をもって実感できる貴重な時間だからです。奨学金をいただいている方、またこれからいただこうと考えている方にとって奨学金は自らの選択肢を広げてくれるありがたい存在です。ぜひ有意義に使っていただきたいと思います。